



The Gender Specific/Sensitive Health Initiative from a glocalized perspective

GSH (性差保健) イニシアティブ～グローバルな視座

“GSH (性差保健)”は、医学のGSM (Gender Specific Medicine) に対し、新潟大学大学院保健学研究科が提唱する学際的概念です。男女の健康問題が身体構造、ライフスタイルや生活の場、地域社会の慣習などによって異なることに注目した研究・実践を包括しています。GSH研究実践センターは、GSHを発信し、推進する様々な取り組みを行ってきました。

今回の国際シンポジウムでは、タイとブラジルから招聘した保健学研究者とともに、GSHの観点から各国の健康支援、GSHを推進する必要性について考えます。男性と女性の健康問題や国際協力、異文化理解に関心のある方の参加を歓迎いたします。ふだんとちょっと角度を変えて考える場、研究や実践への新たな視点を交換できるような場になればと思います。 ※英語・日本語で行いますが、通訳がつきます。

＜登壇者＞

Dr.Jitra Waikagul タイ、マヒドン大学熱帯医学部： 寄生虫学、公衆衛生学、学校保健

Dr.Marcello Otake Sato ブラジル、トカンチンス連邦大学医学部 獣医学、寄生虫学、公衆衛生学

西原 亜矢子 新潟大学大学院保健学研究科内講師、GSH推進担当、社会教育学、組織学習論

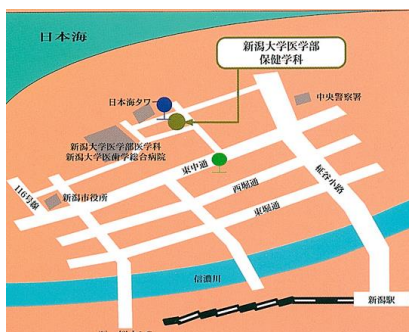
佐山 光子(座長) 新潟大学大学院保健学研究科教授、母性看護学、ウィメンズヘルス

サトウ 恵(副座長) 新潟大学大学院保健学研究科助教、寄生虫学、熱帯医学

日時 2014年10月30日(木) 18:00～20:00

会場 新潟大学医学部保健学科 D41 教室

学生・院生歓迎



タクシー：JR新潟駅前(万代口)から約10分
バス：JR新潟駅前(万代口)駅前バスターミナル

1. 市内各線「東中通」下車、徒歩5分
2. 浜浦町経由信濃町行き、浜浦町経由西部営業所行き、「日本海タワー前」下車、徒歩1分

自家用車：申し込み時に予めご連絡ください。

○ 事前申し込み要10月28日(火)まで
電話/ファクス/メールにて

※一時保育、聴覚障がいへの対応を必要とする方は、10月20日までにご連絡ください。

申し込み・問い合わせ先 月～金(祝日を除く) 9:00～17:00

新潟大学大学院保健学研究科 G S H 研究実践センター (西原)

電話・fax 025-227-2363 E-mail gsh-center@clg.niigata-u.ac.jp



性差保健は

…男性と女性の健やかライフのキーワード…

「性差保健」(GSH)は、男女の身体の違いとともにライフスタイルや生活の場、伝統や慣習なども考慮に入れて、心とからだのトータルな健康支援を行い、保健学を推進することを目的とする研究・活動です。

新潟大学大学院保健学研究科は、性差保健の研究・推進を通じて地域貢献を行うことをめざし「GSH研究実践センター」を設立いたしました。

GSH研究実践センターでは、一般市民の方に向けた保健サービスとして、「女性と男性のこころとからだ・性の相談活動」を実施し、市民公開講座やシンポジウムを開催しています。

また、地元の企業と共同で、性差を考慮した医療や看護の用品・機器・技術開発研究を展開し、行政や保健センター、市民団体などとも連携して、男性も女性もいきいきと健やかに暮らせる地域づくりをめざしています。

GSH 研究実践センター組織図

